平成２９年度 授 業 改 善 推 進 プ ラ ン （第３学年）

武蔵野市立第三中学校

《 美術科 》

| 学力調査・授業・定期テスト等の分析 | 指導方法の課題分析 | 授業改善のための具体的な方策 |
|---|---|---|
| 授業に対して非常に意欲的に取り組んでいるが、以下の点は不十分である。 | | |
| （１）美術への関心意欲態度について、制作において自分なりに創意工夫しようとすることへの関心意欲は高いが、幅広い美術文化の鑑賞に対する点は高いとは言えない。 | （１）歴史的な価値や知識として美術文化をとらえている傾向が強い。作品のよさや美しさを感じ取る視点を身に付ける必要がある。 | （１）幅広い分野の作品を授業で取り上げ、多様な見方・感じ方があることに気付かせる。 |
| （２）発想構想の能力については、自分なりの表したいイメージを強くもって実現しようと創意工夫する姿勢があるが、制作に時間がかかり過ぎ、完成度が不十分になる生徒もいる。 | （２）制作過程において、実現可能であるかの判断の甘さや、見通しをもつことへの意識が弱い傾向がある。 | （２）参考作品や制作過程の提示方法を見直すとともに、材料や用具の特性による制作手順の工夫を促す指導を行う。 |
| （３）創造的な技能については、制作において、水墨画の濃淡や筆遣いなど、試行錯誤をしながら自分なりに課題を見つけ、工夫して表現する生徒もいる。一方で、課題や目的を理解できていない生徒もいる。 | （３）試行錯誤の中から課題を見つけ、創意工夫して解決するというプロセスが生徒に定着していない。 | （３）制作を通して、自分なりに課題を見つけ、創意工夫して解決につなげられる題材を設定する。題材の導入を工夫する。 |
| （４）鑑賞の能力については、修学旅行の事前学習として取り組んだ仏像の学習から仏教美術への興味関心が高まった生徒が多くいたが、日本の幅広い文化への関心は高いとは言えない。 | （４）鑑賞する作品が少ない。多様な見方や感じ方のできる作品を選び、鑑賞体験を積み重ねることが必要である。 | （４）生徒の身の周りにある日本美術に目を向けさせ、実物を提示するなどして関心を高める。幅広い分野の作品を紹介する。 |

平成２９年度 # 授 業 改 善 推 進 プ ラ ン （第２学年）

武蔵野市立第三中学校

《 美術科 》

| 学力調査・授業・定期テスト等の分析 | 指導方法の課題分析 | 授業改善のための具体的な方策 |
|---|---|---|
| 授業に対して非常に意欲的に取り組んでいるが、以下の点は不十分である。 | | |
| （１）美術への関心意欲態度について、制作の創造的な技能に関する内容に関しては関心意欲が高いが、発想構想の能力を高めることについて不十分な生徒が多い。 | （１）創造的な技能については、素材バンクの活用が有効であった。発想構想の能力に関する指導の工夫改善が必要である。 | （１）発想構想の能力の育成のために、参考となる生徒作品や表現方法の具体例を提示し、自分の制作に生かすよう指導する。 |
| （２）発想構想の能力については、自分の内面など目に見えないイメージを表現することに難しさを感じている生徒が多い。 | （２）自分の内面とじっくりと向き合い、自分の願望や不安など安心して自己開示できる環境が不十分である。目に見えないイメージを形や色に置き換える学習が必要である。 | （２）安心して自己開示できる授業にするために、自他の表現を認め合えるようにルールを徹底する。目に見えないイメージを形や色に置き換える短時間題材を取り入れる。 |
| （３）創造的な技能については、制作において、材料や用具の特性を生かして試行錯誤をしながら自分なりに課題を見つけ、工夫して表現する生徒もいる。一方で、課題や目的を理解できていない生徒もいる。 | （３）試行錯誤の中から課題を見つけ、創意工夫して解決するというプロセスが生徒に定着していない。 | （３）制作を通して、自分なりに課題を見つけ、創意工夫して解決につなげられる題材を設定する。題材の導入を工夫する。 |
| （４）鑑賞の能力については、鑑賞カードの記載などから、自分の作品についての鑑賞のポイントを押さえて言語化する力が弱い傾向がある。 | （４）自分が感じたり考えたりしたことを表現するための語彙が少ない。感じたことはあっても、適切な言葉で表現することが難しいと感じている生徒が多い。 | （４）鑑賞のポイントになる見方や言葉を具体的に示し、自分が感じたことに近いものを選ばせたり、穴埋めの形で文章を書かせ、鑑賞の表現を身に付けさせたい。 |

平成２９年度 **授 業 改 善 推 進 プ ラ ン** （第１学年）

武蔵野市立第三中学校

《　美術科　》

| 学力調査・授業・定期テスト等の分析 | 指導方法の課題分析 | 授業改善のための具体的な方策 |
|---|---|---|
| 授業に対して非常に意欲的に取り組んでいるが、以下の点は不十分である。 | | |
| （１）美術への関心意欲態度については、出身小学校の図画工作科での材料・用具の使用経験に差があり、自発的に創意工夫しようとする生徒がいる一方、他の生徒の模倣になってしまう生徒もいる。 | （１）材料や用具の使用方法や使用例の提示方法を分かりやすくし、材料や用具の特性を自分なりの発想構想に結びつけやすくする必要がある。 | （１）多様な材料・用具を使用する表現題材を設定するとともに、生徒が自分の意図に合わせて材料や用具を選べるように、教室環境を整備する。 |
| （２）発想構想の能力については、自分の表現したいイメージをもち、制作に意欲的であるが、題材の目標から外れてしまう生徒もいる。 | （２）題材の目標の理解が不十分である。題材を通してどのような力を身に付けさせたいのかを理解させる指導が不十分である。 | （２）題材の導入では、身に付けてほしい力や重要なポイントについて重点をおいて指導する。授業を通して何を学ぶのか意識させるよう授業展開を工夫する。 |
| （３）創造的な技能については、材料や用具の特徴を十分に生かせていない生徒が多い。 | （３）材料や用具の特徴に関する理解が不十分である。 | （３）素材バンクに材料の具体的な活用方法の例を提示し、理解を深めさせる。 |
| （４）鑑賞の能力については、定期テストの結果から、色の学習等の表現題材と関連した項目についての関心は高かったが、美術史への関心理解は低い傾向にあった。 | （４）美術史も表現や生徒にとって身近なものと関連させて学習させる必要がある。 | （４）表現題材で学んだことを鑑賞題材へ活かし、鑑賞題材で学んだことを表現題材へ活かせるように、授業展開を工夫する。 |